

多摩永山中学校だより

編集・発行 校長 佐藤 信雄

<http://schit.net/tama/ihamanagavama/>

Christmas とパートナーと家族と

校長 佐藤 信雄

もうすぐクリスマスですね。もともとは外国のお祝いなのに、日本ではクリスマスがあっという間に定着し、今ではすっかり冬の風物詩の一つとなっています。日本人はどうしてクリスマスを抵抗なく受け入れたのでしょうか？

これには一説があります。もともと日本人の信仰していた神様は、国土にはいつもはおられず、海の彼方や空の高みから国土に来られる存在だったのです。この「遠くから訪れる神聖な存在」のことを日本人は「まれびと」と呼びお祀りしたとのこと。このように彼方から訪れる神様を迎える信仰をもっていた日本人は、クリスマスのサンタクロースのように、どこからかやってきて幸い（プレゼント）をもたらす存在を受け入れやすかったのだ、という説です。（ちなみに「まれびと」という概念をとらえた人は、国文学者・民俗学者で歌人の折口信夫先生です。）

さて、クリスマスに関連して「クリぼっち」という言葉があることを最近知りました。「クリぼっち」とは「クリスマスを一人で過ごす人、そうした行為」の意味だそうです。だいたい15年前頃から使われ始めた言葉だといわれます。この言葉が生まれた背景には、「多くの人が、クリスマスは仲のよい人と祝いたい」と願っていることがあります。特に若い人たちの間では、「クリスマスは恋人、彼氏、彼女と過ごしたい」と考え、まだ恋人がいない人は「クリスマスまでに何とかしないと、クリぼっちになってしまう！」と慌てるのだとか。

みなさんは、このようにクリスマスのために慌てて恋人探しをするような人たちを、どう思いますか？ 私は、クリスマスにお生まれになったというイエス様も、サンタさんも、笑っているように思えてなりません。ですが、クリスマスにパートナーと一緒にいたいという願いそのものは、私はある意味で当たり前だな、と受け止めています。

欧米の映画やドラマを見ると、欧米で暮らす人々にとってクリスマスは特別なものと分かります。親しい人にプレゼントを用意して、ツリーを飾って、教会に行き、ミサに参加して、みんなで食卓を囲んで…。宗教的な価値とは別に、文化的な価値が豊かなのがクリスマスです。そうした場面の中に、家族の中の若者が、恋人を家に招待して、家族に紹介する場面などを見たことのある生徒さんもおおいだと思います。不思議に思いませんか？ なぜクリスマスに恋人をわざわざ紹介するのでしょうか？

この習慣には文化的な背景があります。家族に紹介する恋人は、だいたい真剣な交際と将来の約束を交わした相手です。つまり、結婚を考えている相手なのです。愛する二人が結婚すると、そこに新しい家族が生まれます。家族の始まりはいつもパートナー同士の結びつきから始まります。そしてそのパートナーは、結婚という形を通して、もとの家族の新しい一員にもなります。本来クリスマスは、イエス様の誕生のお祝いと同時に、新しく始まる家族や、新しく家族になるメンバーを歓迎する「家族のお祝い」の意味合いがあるのです。ですから、クリスマスと、大切なパートナーの存在というものはとても近い関係なのです。クリスマスをパートナーと過ごしたいという願いをもつ人が多いのも、こうした背景があるのかな、と私は思っています。

ここで生徒の皆さんにお尋ねします。「家族とは何でしょうか？」「何をもって家族というのでしょうか？」

実は家族には、血縁（遺伝的な関係）は絶対条件ではありません。よく考えてみると、家族の始まりは二人の人間がパートナーとして結ばれることです。この2人の間には、現代ではたいていの場合、血縁はありません。つまり家族の始まりに血縁はないのですから、家族にとって血縁は絶対に必要なものではないのです。また、欧米諸国では日本以上に養子制度が定着していて、親子と言っても、必ず遺伝的なつながりがあるとは限らないようです。

では家族の定義（定義＝ある言葉の正確な意味や用法について、人々の間で共通認識を定めるよう行われたもの。）とは、いったい何なのか？ 家族であることのあかしとはなんなのでしょう？

答はとても簡単です。「この人（達）は私の家族だ」「私はこの家族の一員だ」と「思うこと」が家族のあかしなのです。結婚や法律は、その思いを支えるものでしかありません。あなたが「私はこの家族の一員だ」と思ったら、その時点であなたはその家族の大切な一員なのです。人が「この人と共に人生を歩もう」と思えるパートナーと出会う家族の始まりも、「家族になろう」という思いがあるからこそ始まります。すべては人の「思い」から始まります。

クリスマスやお正月、年末年始にはあなたもご家族と過ごす時間が増えることでしょう。この機会に、あなたにとってのご家族というものを、捉えなおしてみませんか？ きっと素敵な発見や気づきが、あなたを待っていると思います。では皆さん、あなたのクリスマスとお正月が素敵なものとなりますように！

Merry Christmas & Happy new year !

2 年生 職業人の話を聞く会・職場体験

◆職業人のお話を聞く会◆

11月18(月)午後、2年生は総合的な学習の時間の一環として、各方面で活躍されるプロフェッショナルの皆様においでいただき、職業についてのお話を伺いました。いろいろな分野で実際に働いていらっしゃる方のお話を伺うことで、「働くということ」についての意識を涵養し、職場体験へとつなげるものです。真摯なお話をいただき、生徒の皆さんもたいへん真剣に耳を傾けていました。生徒の皆さんは将来どんな職業に就くのでしょうか？ まだこの世の中に存在していない職業に就く可能性もありますね。楽しみです！

【おいでいただいた講師の皆様】

保 育	青野 陽子 様 (こぐま保育園)
消 防	多摩消防署防災安全課 ご担当様
イラストレーター	真木 孝輔 様
IT システムエンジニア	鷲尾 大輔 様
幼児教育	秋間 善弘 様 (錦秋幼稚園)
体操教室	檜山 和真 様



小さな子への接し方などのお話



体操教室の説明を聞きます

◆職場体験◆ 11月20日(水)～22日(金)

2年生は、事前訪問の後、3日間の職場体験に参加しました。マナーやルールを学ぶことはもちろん、実際に労働を体験して、「働くこと」の意義を学び、将来の職業観を養うことが目的の3日間でした。京王線の遅延などで急な対応が迫られることもありましたが、生徒の皆さんは良く取り組んでくれました。

受け入れてくださり、ご指導を賜りました受け入れ事業所の皆様には、心から御礼申し上げます。地域の皆様のおありがたさを実感した機会でもありました。重ねて御礼申し上げます。

【受け入れてくださった事業所の皆様】順不同

多摩市立中央図書館様	タリーズコーヒーグリナード永山店様
ユニカ FM 千歳屋多摩センター店様	GU ココリア多摩センター店様
イオンシネマ多摩センター様	多摩動物公園様
ライトオン京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター様	
介護老人保健施設 聖の郷様	コメダ珈琲 聖蹟桜ヶ丘店様
稲城市消防本部様	コーチャンフォー若葉台店様
ペットフォレスト 若葉台店様	99kukuBread ククブレッド様
ナチュランド本舗様	株式会社 豊川製作所様
カフェ・ド・スール様	TOHO シネマズ南大沢様
イオンシネマシアタス調布様	ペットショップのコジマ 国領店様
ペットフォレスト 町田多摩境店様	ゆりのき保育園様
かしのき保育園様	多摩市立総合体育館様
伊藤農園様	イエローハット多摩店様
オリーブの丘多摩ニュータウン店様	日本アニメーション株式会社様



1 年生 国際理解教育

11月20日(水)午後、1年生で国際理解教育の時間がもたれました。外国の方と教室で直接ふれあい、異文化への興味関心を深め、各国の伝統、文化を学ぶ大切な機会です。また自分の感想や考えを講師の先生方に伝えるという、表現力を伸ばす貴重な機会でもあります。

これからの国際社会に生きる生徒の皆さんにとっては、他国の文化の理解も、自己表現も大切な要素になります。

当日は多摩市国際交流センターを通して、鈴木モナさん(エジプト)、モイスーリンさん(マレーシア)、小山健治トーマスさん(メキシコ)の3名の方に講師としておいでいただきました。事前に図書館の書籍やタブレットを使っ



「窓からピラミッドが見えますよ」にビックリ



「メキシコという国はね～」にフクワク

て事前学習を進めていましたが、やはり直接のふれあいから知ること、気づくこと、学ぶことはとても新鮮だったようで、生徒の皆さんもたいへん真剣かつ楽しく参加してくれました。教科書やICTとは一味違った、人との交流を通した学びの豊かさを、生徒の皆さんは感じ取ったようです。講師の皆様、ありがとうございました。

たまなが生の大活躍！

敬称略



○ソフトテニス部

◆第50回多摩市民体育大会ソフトテニス大会 11月3日

中学生女子の部

優勝 石垣 美空（1年）・中野 礼菜（1年）ペア

準優勝 前川 美琴（1年）・川崎 実和（1年）ペア

中学生男子の部

優勝 岡本 錬（2年）・布川 翔梧（2年）ペア

準優勝 森田 将希（1年）・伊野 真幹（1年）ペア

第3位 小野 拓夢（1年）・中田 陽仁（1年）ペア



○剣道部

◆第25回東京都中学校第7ブロック秋季剣道大会

男子団体 ベスト8進出 都大会出場権獲得！ おめでとうございます！

◆第48回全国道場少年剣道選手権大会

中学生男子の部 明田 悠弥（3年） ベスト8進出

○囲碁

◆東京都中学校囲碁大会 11月17日

準優勝 山本 創樹（1年） 厳しいトーナメント戦を見事に勝ち進みました！



○中学生の「税についての作文」「税の標語」コンクール

【税についての作文】

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞 萱原 藍子（3年）

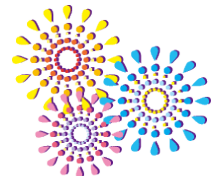
東京納税貯蓄組合総連合会会長賞 綿谷 明日陽（3年）

萱原さんと綿谷さんのお二人は、受賞の記念と、納税道義の一層の向上のPRのため、12月9日（月）に、日野税務署にて一日税務署長に就任され、イベントに参加されます。おめでとうございます。（一日税務署長のご様子は、来月の「学校だより1月号」にてご報告いたします。）

【税の標語】

日野間税会 優秀賞 佐々木 嘉秀（2年） 「歩く道 あの道 この道 税の道」

日野間税会 佳作 鳴重 亮心（2年） 「税金を 正しく使い 良い国に」



冬の花火はきれい～花火大会～

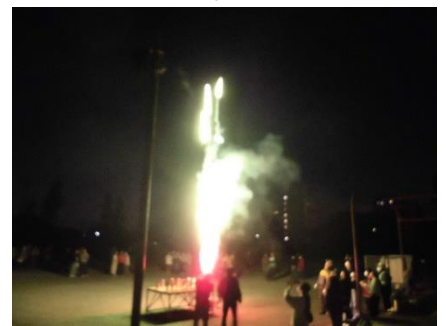
11月13日（水）午後5時から校庭を使って、永山地区青少協と瓜生地区青少協の合同による花火大会が催されました。定期テスト最終日の夕方なので、リラックスした表情の生徒の皆さん53名が集い、澄んだ初冬の空気の中で花火を楽しみました。今回は進行役を生徒会役員会が勤めてくれ、打上花火の名前を一つ一つ楽しく紹介してくれました。生徒会役員会が進行をつとめるというアイデアを青少協様からいただいたことで、例年以上に温かな催しとなりました。青少協の皆様のお心遣いに、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



生徒会役員の皆さんと、打上花火の数々



童心に戻って手持ち花火を楽しみます



豪快に、派手に打ち上げました

家庭科部+有志 農作業支援ボランティア in 小田良ベース 今回は『脱穀』



千歯こきはコツが要りますね



60年くらい前まで使われていました



機械は早い! あっという間です



一番しんどかった、藁束はこびです

天候が心配されましたが、無事16日(土)に小田良ベースにて、脱穀作業を行うことができました。当日は、ハザ掛けして乾燥させた稲束を下ろし、脱穀機能の付いたコンバインでどんどんと脱穀しました。それと同時に、1960年代くらいまで使われていた「足踏み脱穀機」と、江戸時代に開発された「千歯こき」を使って、昔の脱穀の作業を体験しました。生徒の皆さんは最初こそ戸惑っていましたが、すぐにコツをつかんで、どんどん作業を進めてくれました。最後は藁束を丘の上まで運び、脱穀の際に出た藁くずを袋にしまいました。藁はお正月飾りのほか、多くの農作業で使われます。また藁くずは、冬撒きした種や苗の保温に用います。全て無駄なく使う、まさに「持続可能な」昔の農業の一端を垣間見た一日でもありました。

KPKAのわくわく紙芝居シアター in 図書館

11月19日(火)昼休み、恵泉女学園大学平和紙芝居研究会KPKAの加藤さんと顧問の岩佐玲子先生がご来校され、「KPKAのわくわく紙芝居シアター」を行っていただきました。KPKAのメンバーでもある私も上演に参加させていただきました。当日はたくさんの生徒の皆さんが駆けつけてくださり、とても嬉しいものでした。オープニングの手遊び歌「始まるよ」をみんなで歌った後、私から『みんなでポン』を、続いてKPKAの加藤さんが、新見南吉さんの名作『手袋を買いに』を上演しました。生徒の皆さんが集中して、そして笑顔で観てくださるので、演じる側も真摯に、かつ温かな気持ちで演じることができました。演者と観客のつながりを感じられました。

スマホなどでいつでも簡単に動画が視聴できるこの時代ですが、紙芝居の持つ、「人を引き付ける力」と「観る側と演じる側をつなぐ力」を改めて感じる事ができました。アナログにも素敵な力があるものなのですね。

今私は、生徒の皆さんと近隣の幼稚園や児童館に出かけて、一緒に紙芝居を上演したい気持ちでいっぱいです。きっと保育園や幼稚園の子どもたちは、皆さんのようなお兄さんお姉さんが演じてくれるのを、いっぱいの笑顔で楽しく観てくれることでしょう。来年あたり、一緒にやってみませんか?



はじまり はじまり



楽しそうな生徒の皆さん

書きそんじハガキを集めます! ご協力をお願いいたします!



掲示していただくポスター



置いていただく回収ボックス

今年も「書きそんじハガキのご寄付をお願いします」キャンペーンを行います。皆様のお家に、書きそんじのハガキ、未使用の切手、未使用のプリペイドカードでもう不要のものがございましたら、ご寄付いただけたら幸いです。例えば書きそんじハガキが12枚あれば、発展途上国の子どもが1か月、教育を受けられる資金になるとのことです。ペットボトルキャップがポリオのワクチンになるのと同じですね。学校では2階の校長室入口に紙袋を用意しますが、2年生が職場体験でお世話になった各事業所にもご協力をお願いし、ポスターの掲示と回収ボックスの設置をしていただく予定です。地域と一体となって、途上国の子どもたちの健康と学びを支えていきましょう。

皆様のご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。